



## 安心・安全な社会実現 へ向けた取り組み

当社は災害復旧を担う企業です。しかし、我々が災害時に大きく被災してしまうと、災害復旧の活動に支障をきたします。そこで、ハード・ソフト両面での、レジリエンス強化に向けた取り組みを強化し、災害復旧に貢献できるようBCPを推進していきます。



### PICK UP 防災・減災の重要性とレジリエンス強化に向けた取り組み

近年、毎年のように日本各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。これらの激化する自然災害は、温室効果ガスに起因した気候変動が原因といわれており、記録的な大雨や台風被害は、今後もしばしば発生するというリスクを想定しておくことが不可欠です。

当社ではこれまで、地震や自然災害を想定したBCP(事業継続計画)の推進をしていますが、今後は、それらの活動をより一層強化していきます。



▲ 本社での実践的な災害訓練



▲ 災害対策本部設置訓練



▲ 作業所での災害訓練



▲ 作業所での安否確認訓練

当社では毎年、本社や各支店・作業所において、実践的な防災訓練を実施しています。その訓練結果をもとに課題の抽出を行い、持続的に質の高い防災体制を構築しています。

一方、ハード面においても本社ビルの高水準耐震化に向けた検討をしており、これらのハード・ソフト両面でのレジリエンス強化を図り、災害に強い企業を目指します。

また、地域と密着して成長してきた企業として、災害時には防災性の高い本社ビルの一部を避難所として開放することを検討しています。さらに、日本全国に当社の作業所が配置されていますが、各作業所を災害時に地域の避難所(災害の種類により分類)として利用していくことも検討しています。

### PICK UP 災害復旧への貢献

近年多発している、自然災害によるインフラの被災に対し、迅速な対応・工事により早期の復旧に貢献しています。

岩田地崎建設は、北海道開発局・北海道・札幌市に対して、北海道建設業協会・札幌建設業協会を通じ災害時に出勤する防災協定を締結しており、さらに全国の各支店でも、日建連等の団体と協定を締結し、緊急時の連絡・支援体制を含めたネットワークづくりをしています。

私たちはこれからも、地域の皆さまの「暮らしの安全と安心」を守るため、自然災害との闘いに土木・建築技術で挑戦を続けます。



#### 西日本豪雨災害 災害復旧



被災状況



復旧後

■ 2018年7月西日本豪雨災害により、土砂崩れが発生し甚大な被害を受けた広島市西区の井口団地調整池において、復旧支援工事を行いました。

#### 大谷川第3号堰堤工事



被災状況



復旧後

■ 2018年6月砂防堤体の施工中、短時間大雨・異常出水により右岸掘削法面が崩落、調査・再設計後、法面対策工を実施しました。



## 循環型社会 を目指す取り組み

地球にある資源には限りがあり、現在採取されている資源を少なくするとともに、資源を最大限有効利用する必要があります。建設系廃棄物の循環はもちろんのこと、産学官が連携し、地域特有の発生廃棄物の再利用方法の検討、廃棄されるものを最小限に抑える社会実現を目指します。



### PICK UP 廃棄物の適正処理と再資源化の推進

各作業所では廃棄物の分別を徹底しています。これまでも取り組んできた「3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動」を励行し、持続的な適正処理を推進します。また、再生資源の活用も、発注者との丁寧な合意形成を図りつつ、積極的な活用推進を行います。さらに現在、産学官連携での『北海道循環資源利用促進協議会』にも新たに参画しました。この協議会は、未利用循環資源について、排出者や再生利用者・有識者・行政機関などの関係者が集結し、廃棄物に関しての抜本的な処理方法の改善と再資源化に向けた方針を議論、実践しています。

私たちは、「循環型社会の実現」に向け、新たな技術開発を含めた挑戦を続けます。



## 環境保全 への取り組み

建設事業活動を行う上では、継続的な生物多様性保全への取り組みを同時に進めていく必要があります。工事や事業を行う上で、自然や生物への配慮、調和性を考慮した技術革新とともに新たな生物多様性を創出することが求められています。



### PICK UP グリーンプラスワン活動の実施

建設事業には、周辺環境への工事影響を最小限にとどめる施策が求められています。そこで私たちは、工事に伴い樹木や緑地の減少が余儀なく発生した場合、工事終了時の植樹活動等によって緑化再生を促す活動を検討中です。

今年度からは、「グリーンプラスワン活動」の具体的な活動内容の議論をスタートします。

### PICK UP 緑の水田プロジェクト

2015年より活動している「緑の水田プロジェクト」は、休耕田に水田をよみがえらせ、多くの生物が生息する水田の生態系を保全することに加え、米の消費拡大や、活動を通じた地域産業の活性化を目的としています。昨年度は、感染症対策のため大きな活動を自粛しましたが、今後も休耕田をよみがえらせ生物多様性を保全する目標へむけ、活動を継続します。



## 岩田地崎建設が目指す SDGs



岩田地崎建設の事業活動である建設事業は、その事業規模や社会的位置づけから、社会と環境全体に及ぼす影響が大きな業種です。今、私たちに求められているのは、社会的便益をより大きくしつつ、環境への負荷を小さくする手法を模索すること、そしてSDGsへの取り組みや活動をより積極的に展開することで日本の建設業全体が「持続可能な社会の発展へ向け大きく貢献できる産業」へと成長を続けることです。

そのためには、我々一人ひとり、一つひとつの企業の力だけではなく、多くの方々のお力、多くの企業のお力がSDGsによって束ねられることで、より大きな力で社会的課題の解決につながっていくものと考えています。

今後も、私たちはSDGsの体制をより一層強化し、社会課題の解決へ向け挑戦を続けます。



本社 / 北海道本店



東北支店



大阪支店



東京・海外支店